坂川散策路整備事業デザインワークショップ

Report vol. 1

まちの課題と、ヴィジョンと参加者同士の意見交換ができました

坂川散策路デザイン検討の第1回目のワークショップが開催されました。
ワークショップは全3回の予定です。
初回となる今回は、エリアごとの課題の整理と今後のヴィジョンについて整理することを目的としました。藤村龍至氏によるレクチャーの後、市民の皆様と松戸市役所職員が活発な議論を行いました。

日時：2023年8月22日(火)16:00-18:00

会場：アートスポットまつど

参加者：34名

ゲストファシリテーター
藤村龍至｜ふじむら りゅうじ
建築家｜東京藝術大学准教授｜RFA主宰

ウォーカブルな空間を実現するためのワークショップに

松戸市河川清流課長　渡辺

まず松戸市河川清流課長 渡辺より挨拶がありました。「平成11年度に、今回と同様なワークショップを開催し、河川管理用道路や護岸などの整備が実施されました。その後、地域の皆様のご尽力により、松戸宿坂川献灯祭りや坂川河津桜祭りが季節の風物詩として開催されるなど、多くの方に来場をいただいております。こうした、水、緑、歴史が感じられる空間が駅近傍にあるということは、市にとって財産であると感じております。この空間をさらに居心地よく歩きたくなる、ウォーカブルな空間を実現するため本ワークショップを企画いたしました。」と説明されました。

地元の方々がありうべき未来を考えどの方向の未来を選ぶか

藤村氏

続いて東京藝術大学の藤村龍至氏から他地域のまちづくり事例を紹介するレクチャーが行われました。はじめに紹介されたのは、愛知県岡崎市の「QURUWA戦略」です。人口減少や高齢化、商店や事業所の流出、コミュニティの空洞化という問題をかかえる岡崎市中心部では、エリアの約50%が公共空間であることに着目し、点在する公共施設を利活用することで賑わいをつくり、民間投資を誘発し、活性化へ繋げました。社会実験段階では橋の欄干に仮設カウンターを設け、その場所をまちの若い飲食店主が運営し売上と知名度を上げてパワーアップしてまちへ戻る循環ができ、公共空間を用いたエリア活性化の方法を提示しました。整備段階では籠田公園や中央公園に雨よけ・日除け・テーブル・椅子・キッチン(水場)やキッチンカーが横付けできるようにするなど滞在環境を積極的に整備したことで、人が集まるようになり、エリアが生まれ変わる原動力となりました。現在ではこれらの公共空間が空き店舗オーナーとまちに集まる若いプレイヤーが繋がる場となり、空き家店舗の活用が促進され、人が集まるようになったことで民間の新しい不動産投資も集まり始めています。
次に、自身の出身地である埼玉県所沢市と近隣の川越市を対比させ、まちづくりがまちに与える影響や方向性について語りました。1980年代から2000年代にかけて、専門家や行政と協働して歴史的景観を取り戻していくことで観光客が多く訪れるようになった川越市に対し、新しい町並みをつくるべくルールを作り、民間企業の不動産投資を呼び込みながらタワーマンションに置き換えていった所沢市。所沢は定住人口を得た一方でまちのアイデンティティを失いつつあり、一方川越は伝統に根ざしたアイデンティティと交流人口を得た一方で宿泊客が伸び悩み、観光客相手の店が増え生活空間としての商店街は空洞化してきています。街道沿いの宿場町である松戸や岡崎はいま、川越型に向かうことも、所沢型へ向かうこともできます。「まちづくりに正解はない」と言うように、当事者である地元の方々がありうべき未来を想像しどの方向の未来を選ぶかが、どのような投資を誘導するかに繋がり、結果的にまちが作られていく、と当事者主権をベースにした市民間での課題発見や解決のための意思決定の重要性を説明しました。

1. グル-プワーク

今回のWSは5つのグループに分かれて意見交換を行いました。地図を囲みながら、エリアの課題をリストアップした後、藤村氏より松本市のエリアヴィジョンの事例を紹介し、将来ヴィジョンについて付箋に書き込みながら各班ごとに整理しました。

2. 発表

| 1班 |

課題：東沿道は歩きにくいが西沿道は歩きやすい。川に降りて歩けるように整備されていたが歩けないことが問題。ライトアップがイベント時だけなのはもったいない。　ヴィジョン：川に親しむ松戸宿の玄関口にする。将来的には川に下りると川床があったり、川を見ながら食事が出来たり、川を積極的に利用するまちに。

| 2班 |

課題：後継者不足。お祭りを続けていくのが困難。商店も減ってきている。交通、防災の問題も。ベビーカーが通りにくい。西沿道は自転車が多く、2人並んで歩くのが困難。救急車が入って来れないことも問題。
ヴィジョン：通り抜けるまちから、目的地のまち・行きたくなるまちへ。親水広場でイベントを開催するなど駅前とは違う人の集め方ができる。伝統や歴史、文化をより意識した目標がいいのでは。

| 3班 |

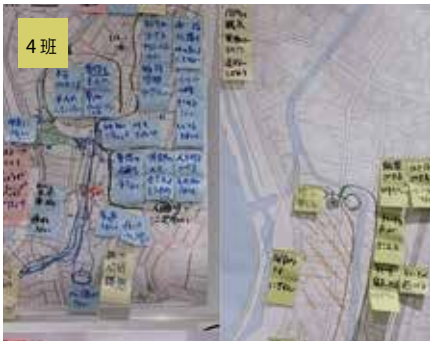
課題：坂川の沿道の滞在環境があまりよくない。またライトアップに関しても課題。柳の木があり、これは歴史的にも景観的にも良いので残したい。松戸パレスからの吹き下ろしの風をどうにかしたい。
ヴィジョン：川に近づける魅力をもっと全面的に PR。歩行者や子供が遊んだりできるような空間にしたい。まちの道沿いは若者などを交えて盛り上げたい。坂川の静かな空間を「揺らぎ」というテーマでライトアップするなど。

| 4班 |

課題：整備はされているが、川が汚い。管理の問題で汚くなってしまっている。坂川は江戸川に対して、逆向きに流れているという語源がある。
ヴィジョン：川が綺麗になれば自然と人が集まる。川をきれいに。公園と公園をむすんで川沿いを歩いて楽しめる空間にした方がいいのではないか。

| 5班 |

課題：日常的に人が通るが現状使いにくい。木の枝などが管理されていない。ゴミ捨て場があるためポイ捨てを助長している。川そのものがヘドロが多い。昔はもう少し日常的によかった。また、若い人の担い手が少ないのも問題。持続的な交流が持ててないから地元のお祭りなどにも影響がでてきている。
ヴィジョン：帰りや夜に寄り道できるような場所を作る。宿場などにお店を増やして行った方がいいのでは。坂川も同様である。



| まとめ |

渡辺コメント

「川があるのにふれあいできない、お店がないから休憩できないなど、話し合いを聞いている中で様々な課題を認識することができた。水質の問題は時間が少しかかってしまうが、私たちに任せて欲しい。今後の第2・3回ワークショップもよろしくお願いします。」と述べられました。

藤村氏コメント

「従来、自治組織などが経営していた地域ですがコミュニティの空洞化が進む中、地域をどう経営していくかの方法論を考える必要があります。次回は運営・管理の観点から議論し、今後の整備方法や将来像のイメージを少しずつ具体化できればと思います。」と述べました。